

附表 査読の基準と重点の置きかた

| 判定項目 | 査読の基準 | 重点の置きかた | | | | | | | | |
|------|--|---|---|---|---|--|-------------|----------------------|---------------------|--|
| | | 論文・Paper | 技術報告・ Technical Report | 研究速報・ Acoustical Letter | 総説・Review | 寄書・Short Note | | | | |
| | | | | | | 速報的 | 資料的 | 意見・提案・討論 | | |
| | | 音響学に関係ある研究や技術開発,あるいは教育手法の成果をとりまとめた論文で,その内容が,学術や産業上,あるいは音響教育上興味がある,又は,有意義であるもの | 試験結果・計測結果・設計資料,並びに教育手法やそれに関わる技術の開発などで,音響に関する技術や教育の進展に資する内容であるもの | 萌芽的研究や試験研究・調査の成果等で,速報性が重視されるもの | 音響学に関連する分野の研究状況を広い視野からまとめたもの | 討論,教育に関する報告,学会に対する意見や提案など | | | | |
| 分野性 | 音響学及びその応用分野に関係するものであること。なお,分野はできるだけ広く解釈する | 境界領域のものも積極的に採録する | | | | | | | | |
| 新規性 | 内容が公知・既発表でないこと。ただし,既知の要素の組み合わせにより,新たな視点や機能等が認められる場合は,新規性を認める | 必要。ただし有効性が高い場合(例えば資料的価値が特に高いもの)には,さほど高くなくともよい | さほど高くなくともよい | 速報性を重視し,新規性,有効性のいずれか一方に評価できる部分があればよい | 類似の分野・対象についてほぼ同じ立場から論じたものが近年に公表されていなければよい | 必要 | さほど高くなくともよい | | | |
| 有効性 | 内容が産業や学術の発展に何等かの意味で役立つものであること | 必要。ただし新規性が高い場合には,さほど高くなくともよい | 必要 | | 最も必要。当該分野の研究状況がバランスよくまとめられていること | さほど必要ではない | 必要 | 意見・提案・討論の主旨に合っていればよい | | |
| 了解性 | 論旨が関連分野の会員に十分理解できるように,簡潔・明瞭に記述されていること。ただし,著しい厳密性・完璧さ・格調の高さ等は必ずしも必要としない | 関連分野の会員に十分理解できること | | 論文・Paperほどの高い了解性は要求しないが,少なくとも同じ分野の会員に理解できること | 関連分野の会員に十分理解できること | 論文・Paperほどの高い了解性は要求しないが,少なくとも同じ分野の会員に理解できること | | | | |
| 信頼性 | 論旨に矛盾がなく,結論等を信頼する上での明確な根拠が示されていること | 厳しすぎる判定をしないようにする | | 前提から結論までの論旨が通っていればよい。それが未検討部分があっても,それが主要課題でなく,結論を変えるほどの重大な影響が予見されなければよい | 特定の研究グループの成果だけについて述べた,一方的な見方だけを紹介したりするものでないこと | 論文・Paperほどの確実な根拠は必ずしも要求しない | | | 相手を誹謗中傷するような内容でないこと | |
| 体裁 | 投稿規定に従って原稿が構成され,記述されていること | 投稿規定に従って原稿が構成され,記述されていること | | | | | | | | |